

〔科目名〕 教育実習事前事後指導	〔単位数〕 1 単位	〔科目区分〕 教職科目(必修)
〔担当者〕 鈴木 郁生・内海 隆 Suzuki Ikuo・Uchiumi Tkashi	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業時に提示する。 場所: 同 上	〔授業の方法〕 講義・演習
〔科目の概要〕 春学期においては、教育実習事前指導として、教育実習で必要とされる基礎・基本の理解を中心に、実習教科の学習指導案(授業案)の作成および板書指導も含めた模擬授業の実践的な指導を行う。 秋学期の事後指導では、教育実習期間中に学校組織や生徒理解に努め、学習指導や生徒指導、特別活動の指導等に無理なく取り組むことができたかなどについて、実習報告の形式で総括し、教職実践演習につなげる。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 実習校での教育実習(2週間又は3週間)を経験することによって、教育実習生として高等学校の現場を理解するとともに自らの教師としての適性も考えることにつながる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 教職課程の最終段階となる「教育実習」に臨むにあたって、学校の組織・運営や生徒指導および学習(教科)指導などの基礎・基本となる内容を確実におさえる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 正規の授業回数の中で効果的な教育実習の事前・事後指導となるように努めるが、要望があれば回数も含めて臨機応変に対応する。		
〔教科書〕 本学所定の『教育実習の手引き』、『教育実習日誌』のほか必要な資料を配布する。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 必要に応じて提示する。		
〔前提科目〕 3年次までの教職専門教科及び「中等教科教育法(商業Ⅰ・Ⅱ)」、「中等教科教育法(公民Ⅰ・Ⅱ)」、「商業実習」		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 事前指導(模擬授業等含む)及び事後指導(実習報告発表、所定のレポート)、教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌などをもとに総合的に判断する。 なお、実際の評価にあたっては、2人の専任教員による。		
〔評価の基準及びスケール〕 A:100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点 F: 49～ 0点		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本学の「教育実習」は、高等学校の教員免許取得を前提に、4年次に学内で行う事前指導と事後指導を内容とする本科目と、実際に学校現場に出向いて行う実践的な「教育実習」からなる。したがって、教育実習に臨む者は、事前に教育実習の意義と目的、内容等の理解に努めるとともに、実習を効果的かつ充実したものにするための準備を十分しておくことが大切である。なお、実習校における教育実習終了後の事後指導としての実習報告も重視する。		
〔実務経歴〕 該当なし。		

授業スケジュール

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導① 内 容:教育実習の目的と意義、教育実習の留意点</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導② 内 容:授業参観の方法と教材研究 『教育実習日誌』について</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』ほか)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導③ 内 容:学習指導案作成と教材研究、板書計画、実習ビデオ鑑賞</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』、ビデオ視聴)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導④ 内 容:学習指導案作成と模擬授業(1)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導⑤ 内 容: 学習指導案作成と模擬授業(2)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導① 内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、報告レポート作成</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導② 内 容:教育実習報告、報告レポート作成</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
試験	<p>実施しない。事後指導時に指定の様式に即した教育実習報告書提出。</p>